



湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE：アブダビ投資庁によるシティへの出資

(11月28日付現地各紙)

11月27日、アブダビ首長国の国営投資機関であるアブダビ投資庁（ADIA）は、資産規模で米国最大の銀行シティ・グループに現金で75億ドルを出資した。

1. シティがADIAに対し75億ドルで売却した普通株に転換可能な証券には、通常債権の2倍、シティの普通株配当利回り7.1%を上回る年間11%の金利が付いており、シティの配当が支払われる。又、ADIAは、購入した証券を、2010年3月15日から2011年9月15日の間に、最大で2億3560万株、約4.9%のシティ普通株に転換出来る。
2. シティは、米国のサブプライム住宅ローン（信用力の低い個人向けローン）関連の損失で、2007年第4四半期の利益が大幅に減少すると見られており、加えて、住宅ローン関連の損失により、シティの自己資本の基本的項目（Tier 1）の比率が9月30日時点で7.3%となっていた。この数字は、米国規制当局が「資本が十分」な銀行と定義する6%を超えているものの、シティの目標である7.5%には届かず、9月30日時点の水準を基に計算すると、75億ドルの注入によりTier 1比率は7.9%になると試算している。
3. 今回の出資により、ADIAは、現在3.97%の株式を保有するサウジアラビアのアル・ワリード・ビン・タラール王子を上回り、シティの筆頭株主となる。又、ADIAは、今回の出資に当たり、シティの経営・企業統治への関与や取締役指名権利を持たないことを明らかにしている。
4. シティの最高経営責任者（CEO）代行のウィン・ビショフ氏は、今回のアブダビからの投資について、報道発表の際にシティの資本基盤の強化に繋がると述べている他、一方のADIAのマネージング・ダイレクターであるアハマド・ザーイド慈善人道奉仕基金総裁（故ザーイド大統領11男）は、今回のシティへの投資について、我々はシティがプレミア・ブランドと素晴らしい成長機会を持っている重視すべき企業とみなしていると述べた。
5. アブダビ首長国の国営銀行であるナショナル・バンク・オブ・アブダビ（NBAD）の調査責任者であるギヤス・ゴケント氏は、サブプライム危機でシティの資本水準に問題が生じたことは明らかであり、ADIAは優良株に割安で投資する好機を得たと述べ、その他の湾岸諸国が白馬の騎士として更なる投資を行う可能性に言及した。
6. 26日付国営WAM通信は、ムハンマド・アブダビ皇太子がシティのルービン会長と面談し、世界の株式市場と銀行業績への影響について協議したと報じている。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799